

命題否定と助詞の前方移動

2007年3月25日(日)

名古屋大学 小坂光一

0. 序

- (1) 研究所は、真冬は丸四時間も太陽が顔を出さない極北の地にある。
(2001年1月8日付『朝日新聞』の天声人語)
- (2) 中国の香酢はすべて同じではない。．．． やずや、やずや。 (テレビのコマーシャル)
- (3) とび出すな、車は急に止まらない。 (交通標語)
- (4) Hat das nicht geschmeckt? – Nein!
たか? それ ない おいしい – 否
- (5) ××放送の音楽番組では20分間はしゃべらない。
- (6) 何故もっと楽な方法で来ない?
- (7) どっちかがいない。
- (8) どっちかがいなければパーティは始められない。
- (8a) どっちか1人いればパーティは始められる。
- (8b) どっちかが欠けている場合にはパーティは始められない。2人そろって初めてパーティを始めることができる。
- (9) 2人ともいなければパーティは始められない。
- (9a) 2人ともいて初めてパーティを始めることができる。
- (9b) 2人とも欠けている場合にはパーティは始められない。しかし、1人いればパーティは始められる。
- (8') どっちかはいなければパーティは始められない。((8a)の解釈)
- (9') * 2人ともはいなければパーティは始められない。
- (10) どっちかがいない場合はパーティは始められない。((8b)の解釈)
- (11) 2人ともいない場合はパーティは始められない。((9b)の解釈)

1. 命題否定と述語否定

- (1) どっちかがいなければパーティは始められない。

命題否定の解釈

- (1a) [どっちかがいる]が成立/存在しない→パーティは始められない
- (1b) [どっちかがいる]のでなければパーティは始められない。
- (1c) [どっちかがいる]が成立/存在する→パーティは始められる
- (1d) [どっちかがいる]のであればパーティは始められる。
- (1e) どっちかがいればパーティは始められる。

述語否定の解釈

- (1f) [どっちかがいない]が成立/存在する→パーティは始められない
- (1g) [どっちかがいない]のであればパーティは始められない。
- (1h) [どっちかがいない]が成立/存在しない→パーティは始めらる
- (1i) [どっちかがいない]のでなければパーティは始めらる。
- (1j) 両方いれればパーティは始められる。
- (2) 2人ともいなければパーティは始められない。

命題否定の解釈

- (2a) [2人ともいる]が成立/存在しない→パーティは始められない
- (2b) [2人ともいる]のでなければパーティは始められない。
- (2c) [2人ともいる]が成立/存在する→パーティは始められる
- (2d) [2人ともいる]のであればパーティは始めらる。
- (2e) 2人ともいれればパーティは始められる。

述語否定の解釈

- (2f) [2人ともいない]が成立/存在する→パーティは始められない
- (2g) [2人ともいない]のであればパーティは始められない。
- (2h) [2人ともいない]が成立/存在しない→パーティは始められる
- (2i) [2人ともいない]のでなければパーティは始められる。
- (2j) どっちかがいれればパーティは始められる。

2. 条件節と命題否定

- (1) どっちかがいなければパーティは始められない。
- (1a) [どっちかがいない]のであればパーティは始められない。
- (1b) [どっちかがいる]のでなければパーティは始められない。
- (2) 両方がいなければパーティは始められない。
- (2a) [両方がいない]のであればパーティは始められない。

- (2b) [両方がいる]のでなければパーティは始められない。
 (3) 10回以上来なければ試験を受けられないよ。
 (3a) [10回以上来ない]のであれば試験を受けられないよ。
 (3b) [10回以上来る]のでなければ試験を受けられないよ。
 (3c) [10回以上来ない]P1 場合は試験を受けられないよ。
 (3d) [[10回以上来る]_{p2} が成立しない]_{p1} が成立する→試験を受けられない

[毎日大学に行く]が成立しない

⇒毎日大学に行かないが、ときどきは行く/たまには行く。(下位の頻度下での前提肯定が可能)

ときどきは行かないが、たまには行く。(下位の頻度下での前提肯定が可能)

*たまには行かないが、 φ (下位の頻度下での前提肯定が想定できない)

[簡単に承服できる]が成立しない⇒簡単に承服できない。(命題否定)

簡単には承服できない。(前提下述語否定)

簡単には承服できないが、しぶしぶ承服する。(前提下肯定が可能)

- (7) [どっちか(が)いる]が成立しないけどパーティを始めよう。
 ⇒*どっちか(が)いないけどパーティを始めよう。
 [誰か(が)来る]が成立しないからパーティは始められない。
 ⇒*誰か(が)来ないからパーティは始められない。

- (8) 全員がいなければこの問題は審議できない。

[全員がいる]が成立/存在 $\begin{cases} \text{する} & \rightarrow \text{この問題は審議できる} \\ \text{しない} & \rightarrow \text{この問題は審議できない} \end{cases}$

↓
 全員がいる $\begin{cases} \text{ば} & \text{この問題は審議できる} \\ \text{なければ} & \text{この問題は審議できない} \end{cases}$

↓
 $\begin{cases} \text{全員がいればこの問題は審議できる。} \\ \text{全員がいなければこの問題は審議できない。} \end{cases}$

- (9) どっちか来なければパーティは始められない。

[どっちかが来る]が成立 $\begin{cases} \text{する} & \rightarrow \text{パーティは始められる} \\ \text{しない} & \rightarrow \text{パーティは始められない} \end{cases}$

↓
 どっちかが来る $\begin{cases} \text{ば} & \text{パーティは始められる} \\ \text{なければ} & \text{パーティは始められない} \end{cases}$

↓
 $\begin{cases} \text{どっちかが来ればパーティは始められる。} \\ \text{どっちかが来なければパーティは始められない。} \end{cases}$

V+NEG+TEMP

[どっちかがいる]+[ない]+[ば] ⇒ どっちかがいなければ(命題否定)

[どっちかが[[いる]ない]]+[ば] ⇒ どっちかがいなければ(述語否定)

[誰かが来る]+[ない]+[ば] ⇒ 誰かが来なければ(命題否定)

[誰かが[[来る]ない]]+[ば] ⇒ 誰かが来なければ(述語否定)

3. 助詞の前方移動

3.0. よく使われる例

迷惑ばかりかける。

嘘ばかりついている。

ほらばかり吹いている。

春もたけなわとなりました。

暮れもおしつまった頃

3.1. 「W力」と「Wモ」

(1b) 今日は彼は来ない。

(2b) 誰もいない。

(3b) 今日は何も食べない。

(4b) 明日はどこへも行かない。

(5b) 誰かいるか。(1人以上の人間がいるか。最低1人の人間がいるか)

(5c) 誰もいない。([1人以上の人間がいる]の否定。[最低1人の人間がいる]の否定)

(6) 誰かがいる。

- (7) ー誰かがいない。(「1人以上でかつ全部でない」人間がいない。「1人以上でかつ全部でない」人間の非存在)
- (8) ー誰もいない。(0人の人間がいる。「全部」の人間の非存在。「1人以上の人間の存在」の否定)
- (7) 誰かがいない
1人以上の人間が[[いる]ない]
- (8) 誰もいない
[1人以上の人間がいる]ない
- (7) 誰かがいない
1以上の人間が[[いる]NEG]
- (8) 誰もいない
[1以上の人間がいる]NEG

3.2. 「W力」+「ハ」

- (1) 誰かはいない。
- (2) 誰かがはいる→誰かはいる/誰かがいる
- (3) 誰かがはいない→誰かはいない/誰かがいない
- (4) 誰かはいる→少なくとも「1人以上の人間」が存在する
- (5) 誰かはいない→少なくとも「1人以上の人間」が欠けている
- (6) 週に5日は大学に来る(少なくとも週に5日大学に来る。5日以上大学に来る)
- (7) 週に5日は大学に来ない(大学に来ない日が少なくとも週に5日ある。大学に来ない日が5日以上ある)
- (8) 私は東京に行きますよ(他の人はともかく、少なくとも私は東京に行く)
- (9) 私は東京に行きませんよ(他の人はともかく、少なくとも私は東京に行かない)
- (10) * 毎日仕事します(文そのものが成立しない)
- (11) 毎日仕事をしません(「少なくとも」のニュアンスが伴わないのは(「毎日仕事をする」の)命題否定の解釈しか成り立たないことに起因する)
- (12) 週に5日は大学に来ない(「週に5日大学に来る」の命題否定から派生。大学に来るのが「週5日未満」である)
- (13) 毎日仕事をしません(「毎日仕事をする」の命題否定から派生。仕事をするのが「毎日未満」である)
- (14) 絶対に全員は来ませんよ(「全員来る」の命題否定から派生。来るのは「全員未満である」)
- (15) 3人は来ませんよ(「3人来る」の命題否定から派生。来るのは「3人未満」、すなわち「2人もしくは1人」である)

- (16) 2人は来ませんよ(「2人来る」の命題否定から派生。来るのは「2人未満」、すなわち「1人」)
- (17) * 1人は来ませんよ(0以外の「1人未満」が想定できないので命題否定の解釈が成り立たない)
- (18) 1人も来ませんよ(来るのは「1人未満」、すなわち「0人」)
- (19) 1人も来ませんよ(来るのは「1人未満」すなわち「0人」)
- (20) 誰も来ませんよ(「誰か」=「1人以上」。来るのは「1人以上」でない。すなわち「0人」)

3.3. 助詞の前方移動

久野(1973):「対照を表す『ハ』の転移とでも言える現象」¹

雨ハ降ッテイマスガ、傘ハ持ッテ行キマセン。

では、「雨」と「傘」が対照されているのではない。「雨が降ッテイル」と「傘ヲ持ッテイキマセン」が対照されているのである。この文は

雨が降ッテハイマスガ、傘ヲ持ッテハ行キマセン。

の二つの「ハ」が転移して、文頭に移ってきたものらしい。

- (1) 毎日大学に行きません。
- (2) * 毎日大学に行く。
- (3) 毎日大学に行かない。
- (3a) [毎日大学に行く]は成立/存在しない(が、[毎日未満の頻度で大学に行く]は成立/存在する)
→[毎日大学に行く]はしない
→[毎日大学に]は行かない
→[毎日]は大学に行かない
- (4) 太郎は勉強ばかりしている。
- (4a) [太郎が勉強している]ばかりが存在する
太郎は[勉強している]ばかりだ
→太郎は[勉強して]ばかりいる
→太郎は[勉強]ばかりしている
- (5) 次郎は文句ばかり言っている。
- (5a) [次郎が文句を言っている]ばかりが存在する
次郎は[文句を言っている]ばかりだ

¹ 久野 暉(1973)『日本文法研究』S. 31。なお、S. 207 も参照。

- 次郎は[文句を言って]ばかりいる
 →次郎は[文句]ばかり言っている
- (6) 三郎はうそばかりついている。
 (6a) [三郎がうそをついている]ばかりが存在する
 三郎は[うそをついている]ばかりだ
 三郎は[うそをついて]ばかりいる
 三郎は[うそ]ばかりついている
- (7) あの店はいいものばかり売っている。
 (7a) * [あの店がいいものを売っている]ばかりが存在する
 * あの店は[いいものを売っている]ばかりだ
 * あの店は[いいものを売って]ばかりいる
 あの店は[いいもの]ばかりを売っている
- (8) 毎日は大学に行かないが、ときどき/たまには行く。
 (9) ときどきはいかないが、たまには行く。
 (10) * たまには行かないが、φ。
 (8a) [毎日大学に行く]は成立/存在しない(が、[毎日未満の頻度(「ときどき」/「たまに」)で大学に行く]は成立/存在する)
 (9a) [ときどき大学に行く]は成立/存在しない(が、[「ときどき」未満の頻度(たまに)で大学に行く]は成立/存在する)
 (10a) * [たまには大学に行く]は成立/存在しない(が、* [「たまに」未満の頻度で大学に行く]は成立/存在する。「たまに」以下の頻度ということは頻度0を意味することになるので、この文は成立しない)
 (11) 3は成立/存在しないが、2は成立/存在する
 (12) 2は成立/存在しないが、1は成立/存在する
 (13) * 1は成立/存在しないが、(* 0は成立/存在する)

3.4. 助詞「モ」+否定

- (1) 3は成立/存在しないが、2も成立/存在しない
 (2) 2は成立/存在しないが、1も成立/存在しない
 (3) [毎日大学に行く]は成立/存在しないが、[ときどき大学に行く]も成立/存在しない
 (4) [ときどき大学に行く]は成立/存在しないが、[たまに大学に行く]も成立/存在しない
 (3a) (もちろん)毎日**は**大学にいかないが、ときどき(すら)**も**大学に行かない。
 (4a) (もちろん)ときどき**は**大学に行かないが、たまに(すら)**も**大学に行かない。

- (5) 1人**も**いない。
 (もちろん)[2人以上がいる]は成立/存在しないが、[1人がいる](すら)**も**成立/存在しない
 [1人がいる](すら)**も**成立/存在しない
 →「も」の前方移動
 →[1人が](すら)**も**いない
 →格助詞「が」の消去
 →[1人]**も**いない
- (6) **誰も**来ない。
 [誰か(1人以上で、最低1人)が来る](すら)**も**成立/存在しない
 →[誰か(1人以上で、最低1人)が](すら)**も**来ない
 →格助詞「が」の消去
 →[誰か](すら)**も**来ない
 →「カ」の消去
 →[誰]**も**来ない
- (7) この仕事をするのに、A 君は3時間もかかるが、B 君は1時間もかからない。
 (7a) 3時間もかかる。
 ([2時間かかる]は成立/存在するが)[3時間かかる](すら)**も**成立/存在する
 →「モ」の前方移動
 →[3時間かかり](すら)**も**する
 →「モ」の前方移動
 →[3時間]**も**かかる
 (7b) 1時間もかからない。
 ([2時間かかる]は成立/存在しないが)[1時間かかる](すら)**も**成立/存在しない
 →「モ」の前方移動
 →[1時間かかり](すら)**もし**ない
 →「モ」の前方移動
 →[1時間]**も**かからない
- あるいは
 ([2時間もかからない]は成立/存在するが)[1時間もかからない](すら)**も**成立/存在する
 →「モ」の前方移動
 →[1時間もかからない](すら)**も**する
 →「モ」の前方移動
 →[1時間]**も**かからない

3.5. 補 足

- (1) 雨ハ降ッテイマスガ、傘ハ持ッテ行キマセン。
(1a) [雨が降っている]は成立/存在するが、[傘を持って行く]は成立/存在しない
→[雨が降って]はするが、[傘を持って行き]はしない
→「ハ」の前方移動
→雨が降って**は**いるが、傘を持って**は**行かない
→「ハ」の前方移動
→雨が**は**降っているが、傘を**は**持って行かない
→格助詞の消去
→雨**は**降っているが、傘**は**持って行かない
(2) お金は十分ありますが、土地は売り払いました。
(3) お金はありますが、土地は絶対に売りません。
(4) 天気は悪いが、ハイキングは続行する。
(5) 天気は良くないが、運動会は中止しない。
(2a) [お金が十分ある]は成立/存在するが、[土地を売り払う]は成立した/[土地を売り払った]
は存在する
- ① **命題内容の対立**(Aが肯定されれば、Bは必然的に否定される。AとBが両立しない。AとBの一方のみが成立/存在する)
② **想定される帰結との対立**(AとBが両立し得る。一方が成立/存在(肯定)し他方が非成立/非存在(否定)の場合だけでなく、AとBの両方が成立/存在、もしくは非成立/非存在し得る。接続語としての「ガ」は「それにもかかわらず」、「想定される帰結に反して」の意味を有する)
- (2) お金**は**十分ありますが、土地**は**売り払いました。
[お金が十分ある]A ⇒(想定される命題)[土地を売らない]B
→[お金が十分ある]A**は**成立/存在する ⇒ (それにもかかわらず)[土地を売る]B**は**成立した/[土地を売った]Bは存在する
→「ハ」の前方移動
→お金**は**十分ある。それにもかかわらず土地**は**売り払った
→お金**は**十分あるが、土地**は**売り払った
(3a) お金**は**ありませんが、土地**は**絶対に売りません。
[お金がない]A ⇒(想定される命題)[土地を売る]B
→[お金がある]A**は**非存在だ ⇒ (それにもかかわらず)[土地を売る]B**は**非成立/非存在だ
→お金**は**ない。それにもかかわらず土地**は**売らない
→お金**は**ないが、土地**は**売らない

- (1) 雨ハ降ッテイマスガ、傘ハ持ッテ行キマセン。
(1b) [雨が降っている]A ⇒(想定される命題)[傘を持って行く]B
→[雨が降っている]A**は**成立/存在する ⇒ (それにもかかわらず)[傘を持って行く]B**は**成立/存在しない
→[雨が降って]はするが、[傘を持って行き]はしない
→「ハ」の前方移動
→雨が降って**は**いるが、傘を持って**は**行かない
→「ハ」の前方移動
→雨が**は**降っているが、傘を**は**持って行かない
→格助詞の消去
→雨**は**降っているが、傘**は**持って行かない

「WHモヘナイ」は「[WHカ(1以上)]の命題否定+「モ」の前方移動」から派生する

- (4) 誰**も**が知っている。
([全部の人が/多くの人が/何人かの人が知らない]は成立/存在しないが)[誰か(=「1人以上で、最低1人」)が知らない](すら)**も**成立/存在しない
→全部の人間が知っている
(5) 彼はいつも**も**留守だ。
([彼が全部の時間に/多くの時間に/ときどき在宅している]は成立/存在しないが)[彼がいつか(=「1回以上で、最低1回」)在宅している](すら)**も**成立/存在しない
→ 彼は全部の時間において非在宅だ→常に留守だ
(6) 連休中はどこ**も**満員だ。
([全部の場所において/多くの場所において/いくつかの場所において空いている]は成立/存在しないが)[どこか(=「1箇所以上で、最低1箇所」)において空いている](すら)**も**成立/存在しない
→ 全部の場所において満員だ